



第16回淀川河川公園 凧あげ大会

2/5(日)(小雨決行)



凧あげで冬を楽しもう！寒いからってコタツで丸くなってないで、冬の空が広がる淀川河川公園へ。朝10時の太間地区は家族連れや子どもたち、そして凧好きの大人たち大賑わい。今年も10時(300枚)と13時(100枚)に先着順で合計400枚の凧を配布します。ここ数年風の都合であげられていない20畳敷きの淀川大凧も、今年こそはと準備万端でのぞみます。他にも色々な形の変わり凧も登場。日本の凧の会協力による凧あげコンテストも実施しますので、はりきってどうぞ！毎年順番待ち続出で、超～人気の手作り凧教室(100枚)に参加したい子どもたちは、とにかく早めに太間地区に集まってください。



コンテストねらいで何描こう!?



手作りコーナーは大人気!

この秋、こんなイベントがありました

祝出場・総合優勝！「チームNJ」 第17回淀川河川公園リレーマラソン



1位



2位



3位

11月27日(日)、絶好のマラソン日和の枚方地区で、全266チーム・2099名の参加を迎え、今年のリレーマラソンが開催されました。スタートから30分、1位「MRC関西」、2位「チームNJ」、3位「菖蒲のもみあげ48」という展開に始まり、1時間後には「チームNJ」がトップに躍り出ました。その後もトップをキープし続け、2時間14分54秒の好タイムで総合優勝。2位には後半で巻き返した「菖蒲のもみあげ48」。3位「ティップネスA」がそれぞれ入賞しました。また、宮川大助・花子師匠が「よしもとナショナルチーム」で参加(総合6位)、大会を盛り上げてくれました。

チューリップが人気 秋の緑化市



10月22日(土)・23日(日)守口地区恒例の緑化市が行われました。今回も植木市では大量の花苗や鉢植えを格安価格で出展！特にチューリップの球根は人気で、用意した720個が、初日でほぼ完売となりました。工作教室も相変わらずの人气で、ヨシやシジミ貝の工作に入れ替わりで大勢に参加いただきました。フリーマーケットブースでは、珍しい切り紙の作品販売が来場者の目を楽しませていました。



第94回淀川の自然を楽しむ会 河原の野鳥観察

2/26(日)(雨天決行)



ヒドリガモ

京阪神有数の探鳥ポイント淀川。特に冬は野鳥観察のベストシーズンです。今年も自然の雑木や草原が混ざる枚方地区から牧野方面の淀川河川敷へ出掛けます。専門家といっしょに歩けば、今まで以上の発見が待っているかも！

スケジュール
 9時30分 京阪枚方市駅1階中央コンコースに集合
 10時 枚方地区最上流部で開会、10時30分 探鳥開始、
 12時 昼食(各自持参ください)、12時30分 探鳥再開、
 14時30分 鳥合わせ、15時 閉会

はがきに住所、氏名、電話番号(同伴者とも)を明記の上、507-0096守口市外島町4-18 淀川河川公園 守口サービスセンター「第94回淀川の自然を楽しむ会係」まで。
 また、電話06-6994-0006でもお申し込みいただけます。
 締め切り2月17日(金)

第2回がんばりまっせ大阪！



4/1(日)(雨天決行)

なにわ淀川ハーフマラソン

制限時間はありまへん！淀川のフラットなコースで全員完走をめざします。今年もゲストランナーに「走る男」森脇健児さんを迎えます。西中島地区からハーフ、10km、5kmの3コース。定員7000名・申し込み締め切り1月31日(ランテス)。お問い合わせは電話06-6994-0006まで。

水面に浮かび毛づくろいに勤しむ水鳥や、私たちが誘うようにさえずりながら木立を渡る小鳥…淀川の枚方あたり(枚方地区～牧野方面)はさまざまな自然が渾然一体となった、野鳥をはじめとする生き物たちの格好の住み処。今回は、枚方市で長年自然の調査を続けておられる「枚方いきもの調査会」の代表幹事・石川新三郎さんに、枚方・淀川河川敷での探鳥の魅力を紹介していただきます。

枚方には野鳥がいっぱい

日本では500～600種類の野鳥が見られますが、枚方ではその内約250種類(枚方野鳥の会会長藤原氏データ)が観察できます。淀川と生駒山系の山間部が3本の支川でつながっていて、里山も残されている枚方には、川と山・両方の鳥が現れることから、大阪の都市部近郊では、たくさんの鳥と出会えるまちだと言えます。

多彩な環境が鳥を誘う淀川

淀川枚方市域周辺には、ヨシ原・砂州・ワンド…広い河川敷には大きな木の茂る河川林があります。枚方大橋～京都府との境界までの間では、約143種(藤原氏データ)の野鳥が見られます。ですから、冬の探鳥会では最低40種、運が良ければ50種類の野鳥に出会えます。さらにここではたくさんの猛禽が見られるのが最大の特徴です。

豊かな餌場集まる猛禽

ここは猛禽の生息にとってもいい場所です。大阪には他にも川がありますが、淀川は一番広くて、餌となる生き物を育む自然が残っています。大阪で冬に猛禽を観察できる場所として、ここは、野鳥好きなら誰もが知っている名探鳥地なんです。今の時期は何種類かの猛禽が必ず見られます。魚を獲るミサゴやノスリ・オオタカ・チョウゲンボウ・ハイタカ・チュウヒ・ハイイロチュウヒ…等々。ハヤブサは年中見られます。最近ではツミも来ています。一度、オオタカとハイタカがすぐ近く

冬に淀川で見られる鳥たち



枚方・冬のバードウォッチング!



にいるのも見ました。ネズミやモグラを狙う草原の鳥ノスリや、ヨシ原の鳥チュウヒは対岸上流の鶴殿から来るのでしょうか。

草原・木立にくらす山鳥

ヨシ原や草原ではベニマシコ、ホウジロ、アオジ、オオジュリンなどが。水辺に続く林にはアカゲラやカッコウ、ツツドリなどがいます。シロハラも林の鳥です。河川敷はたくさんの林の鳥が生活できるだけの密度になっています。ジョウビタキも本来は河原にはいない山鳥です。

もちろん水鳥も

淀川にいる鳥と言えば、カモ類などの水鳥や魚を食べるサギ類。よく見られるカモの仲間にはほとんど来ますね。マガモ・ヒドリガモ・オカヨシガモ・オナガガモ…。ちょっと珍しいと言えば、アメリカヒドリが1～2羽ですがヒドリガモに混じってやって来ます。群れの中から見つけるのが楽しみです。毎年カンムリカイツブリ、ミコアイサ・カワアイサも小さな群れで来ます。カモの仲間には草や藻などを食べるものと、魚を食べるものがあります。特に魚を食べるものは餌場を選ぶため、淀川に集まるのでしょうか。猛禽も楽しみですが、これらの水鳥が比較的近くで見られるのが冬ならではのですね。

鳥を見るための準備

双眼鏡 口径30mm・倍率7～8倍ぐらいが標準。倍率が高くなると、視野が狭くなり鳥を見つけないくなる。口径は大きいほど視界が明るくなるが、重くなり疲れる。



これは必要!

鳥図鑑 入門用なら写真ではなくイラストがおすすめ。鳥の特徴を分かりやすく描いてあるため、見てわかるようになっていて、似たものの差が分かりやすい。

望遠鏡&三脚 口径60～70mm・倍率20倍ぐらいがよい。これ以上だとやはり見つけにくい。また三脚は、軽いと立てても震えて見づらいので、なるべくしっかりしたものを。



あったらうれしい!



ノート 筆記用具は記録に必要。

雨具 傘も大事だが、レインウェアは必需品。防寒にもなる。

服装 夏でも長袖長ズボン。帽子。コンタクトではなく眼鏡(フィールドでは枝葉が目にあたることも。それに落としたら大変)。靴はスニーカーあるいは足を守る丈夫なものを。

特に冬は「寒くない」が第一

どんな服装でもいいが、長時間外にいることになるので、「寒くない」十分な用意を。現場で寒さを感じると、鳥どころじゃないし、すぐに戻れない場合も。甘く見ないようにしたい。

鳥の見分け方

大きさを覚える

カラス・ハト・ムクドリ・スズメ等の大きさを指標として覚えると、知らない鳥と出会ったとき、サイズが判別基準になります。



鳴き声を聞く

一番分かりやすく判別に役立つのは鳴き声です。ですから鳥を見るときは静かに探しましょう。

探鳥会マナー

鳥は音に敏感です。視力も大変いいので、静かにして、目立った行動に注意しましょう。(おしゃべりは探鳥の後で)

枚方いきもの調査会

「残したい枚方の自然」の調査を続けて10年目。野鳥のほか植物・昆虫・メダカと魚の4つの部会で、自然を楽しむだけでなく一歩踏み込んだ調査・記録を行っている市民団体。会員130名(家族会員含む)。各部会で枚方市の淀川河川敷、府営公園、東部山間地などの自然を毎月1～2回調査・記録する調査会を実施。定例の調査会として淀川は年6回調査し、種類、個体数、確認場所も記録している。記録は毎年報告書にまとめ、国・大阪府・枚方市や関連団体へ、また市内の自然保護団体との情報交換として提供している。(府下及び国でも、4部会の活動は「稀」と評されています)

●調査会【野鳥部会】は誰でもご参加いただけます。

問い合わせ: 松下孝雄 TEL.072-868-3836

<http://www.est.hi-ho.ne.jp/ikimonohirakata/>

(野鳥部会は、「枚方野鳥の会」と連携して活動しています)



(写真提供/遠藤義人さん、徳田初江さん、中川久男さん、西川泰太さん、松下孝雄さん他)